

# 東日本大震災からの産業復興に奮闘する地元企業のご紹介

甚大な被害をもたらした東日本大震災から3ヶ月以上が経過した今、復興に向け各地で着々と復興作業や支援が進められています。そのなかで平塚市内でも復興に向け奮闘する企業があります。平塚市中小工業会（経営委員会・広報委員会共催）では、この様な取り組みを皆様にご紹介すべく、企業見学会を開催いたしましたのでご紹介させていただきます。

**第1回** 【訪問企業】 配島電機工業株式会社 平塚市東豊田 480-4 54-2853  
 【業 種】 モーター修理業



## 東日本大震災により浸水したモーターの修理依頼は500台

配島電機工業(株)では、特注品や製造中止となったモーター、さらには外国製のものまで、様々なモーターの修理を請け負っている。今回の震災では被災地の主要工場からその下請け企業まで一様に津波の被害を受け、多くの機械類が浸水した。その機械類に付属しているモーターは独自のものが多く、新しく購入しようとする機械類ごとの購入になってしまう。そこで注目されるのが、モーター修理各社だ。同社では中2日程度で新品同様に修理する。平塚市中小工業会経営委員会(委員長 向山久光氏)及び広報委員会(委員長 青木昭二郎氏)では、「モーターであれば直せないものはない。」ほど、モーターを熟知し、熟練した同社の技術・作業工程を見学してきた。

## 塩分が固形化し、錆付いたモーターを修理する工程

モーターを分解、点検、測定し、詳細な記録を取り、被害状況を把握。

巻線が必要なくらい重症なモーターは別に分け、オーバーホールや清掃により回復するモーターを選別する。固定子・回転子を洗浄・煮沸する。津波により浸水したモーターは内外いたるところに、固形化した塩分が付着している。その塩分を取り除くために、お湯で5時間煮出した後、乾燥室で12時間乾燥させる。各部品の手入れ清掃、軸受け等交換部品を交換。ものを塗装し、完成となる。



塩分を取り出すため煮沸している様子  
組立、試運転試験に合格した



塩分が固形化し錆付いたモーター

## モーターのコイル巻きは、社員一人ひとりの知識と経験が頼り

今回は拝見できなかったが、コイル巻きが必要なモーターは巻線室にて一から社員の手でコイルが巻かれるという。ここで問題となるのは、その結線方法だ。モーターの結線方法は多種多様であり、実際に中を見てもないことにはどの様な結線になっているのか分からない。もちろん取扱説明書が付属しているわけでもない。そこで頼りになるのが、社員一人ひとりの知識と経験になる。

同社では過去に扱ったモーターの結線方法がすべて結線図にまとめられていた(右写真参照)。ないないづくしのコイル巻きにあっては、この結線図は社員の宝だという。



大切に保管されている結線図

電流測定等社内試験を行う